

東京工業大学

窯業同窓会会誌

1989年4月



旭 焼 原 画

ご挨拶

会長 田賀井 秀夫 (昭13)

平成元年の桜の季節を迎え、皆様益々ご清祥のことと拝察します。

東工大のセラミックスは百年以上の歴史をもっています。昨年末には母校の正門のそばに話題の百年記念館が完成して、特別展示室が開設されました。そこではワグネル先生の資料をはじめとして、平野陶磁器コレクションなど窯業関係の品々が大きなスペースを占めています。窯業同窓会の先輩各位が我が国のセラミック産業の確立に果たした役割りは極めて大きいのであります。

窯業同窓会は蔵前時代の東京高等工業学校窯業科第1回生以来同窓親睦の会として発足しました。大正時代には鳥又會と称して、洋行および帰朝の送迎会や懇親会を開いていました。昭和の始め頃に愛窯會となり、昭和8年には窯業同窓會となりました。昭和18年に八日會(窯化會に通じる)と改称して毎月会を催していましたが、戦局の悪化とともにその活動は中断しました。戦後の昭和22年に会名を再び窯業同窓會と改称して活動を再開しました。それ以来会は年と共に発展し、毎年総会と懇親会を開いて現在に至っています。



同窓会の一番大事な仕事は会員相互の懇親の輪を拓けることです。その意味で、久しぶりに会員名簿を発行できたことの意義は大きいと考えます。

昭和63年度中に、石塚正信相談役をはじめとして数名の会員が幽明境を異にされました。さらに本誌の校正中に、倉田元治本会元会長の訃報に接しました。これらの方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

窯業同窓会規約

1. 本会は窯業同窓会と称する。
2. 本会は会員相互の親睦を図り、窯業界の向上発展を期することを目的とする。
3. 本会は事務所を東京都目黒区大岡山東京工業大学内に置く。
4. 本会は以下の事業を行う。
 - (1) 会誌の発行
 - (2) 名簿の発行
 - (3) その他幹事会が必要と認めた事業
5. 本会会員は東京工業大学の窯業関係者で組織し、会員は所定の会費を納入する。
6. 本会の経費は、会費、会員その他からの事業寄附金、その他の収入で支弁する。

- 会計年度は毎年4月に始まり翌年3月に終わる。
7. 本会は毎年総会を開いて以下について審議する。
 - (1) 会務の報告
 - (2) 役員の変更
 - (3) 規約の改正
 - (4) その他
 8. 本会に以下の役員を置き、任期は2年とする。ただし再選は差支えない。
 - (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 幹事 若干名

- (4) 常任幹事 若干名
9. 会長、副会長および幹事は総会で選出する。常任幹事は幹事の互選とする。
10. 会長は本会を総理し、副会長は会長事故あるとき代行する。常任幹事は会務（庶務、会計）を処理する。幹事は本会の重要事項を審議し、地方、各職場、クラス等の状況および本会に対する意見を本部に連絡する。

11. 本会は名誉会長および相談役を置くことができる。名誉会長と相談役は役員会で推薦して総会で承認を得る。
12. 本会に支部を置くことができる。支部は本部と連絡を密にして会の発展に協力する。

内 規

1. 工学部無機材料工学科の卒業生と大学院無機材料工学専攻の修了者（それ以前の、これに準ずる卒業生を含む）を会員とする。
2. 本学の教官、本学の他学科、他専攻の出身者、および本学以外の出身者で、本会との関係が深い方も会員とすることができる。
3. 年会費は2,000円（名簿代を含む）とする。年会費を超える納入金はその年度の事業寄附金にあてる。

昭和 63 年度収支報告

自昭和 63 年 4 月 1 日～至平成元年 1 月 31 日
 （加藤が停年退官しますので、今年度に限り 1 月 31 日で集計しました。）

収入

前年度繰り越し金	1,970,853 円
懇親会会費	245,000 円
年会費・寄付金	2,141,500 円
銀行利子	34,090 円
合 計	4,391,443 円

支出

総会・懇親会経費	416,017 円
卒業 50 周年記念品代	86,900 円
会誌等印刷代	398,900 円
印刷用ソフト及び原簿カード作成費	661,500 円
住所等データ訂正経費	69,810 円
振込・連絡票、封筒作成費	443,800 円
会誌等発送費	323,360 円
料金後納郵便代	17,425 円
広告掲載依頼状等発送連絡費	66,900 円
役員会通知、その他通信連絡費	21,400 円
文房具等	48,390 円
次年度繰り越し金	1,837,041 円
合 計	4,381,442 円



昭和 63 年度窯業同窓会年会費・寄附金納入者御芳名（敬称略）

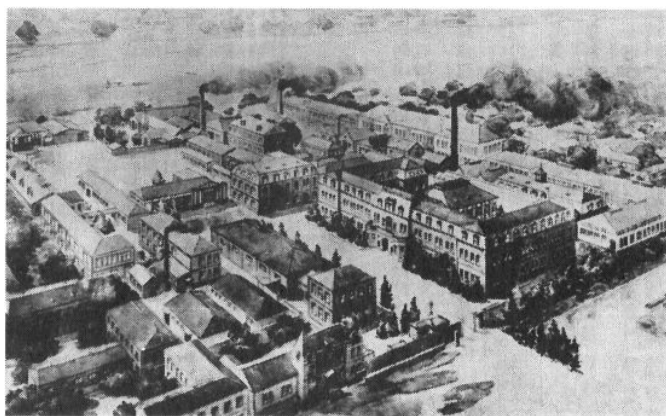
（平成元年 1 月 31 日現在です。金額のうち 2,000 円は年会費です）

22,000 円 195503 小柳道男 19 3011 中山一郎 192417 山内俊吉
 20,000 円 192201 石塚正信 193804 笹沼宗一郎 194143 島岡達三 193207 西田一雄

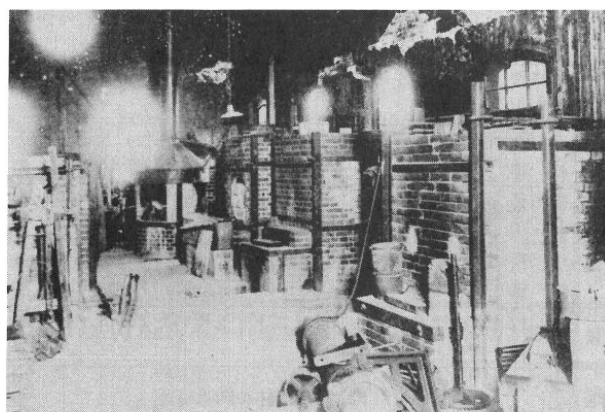
17,000 円	194822	森 元邦				
12,000 円	193602	宇野達路	194704	遠藤幸雄	194623	太田千里
	200202	斎藤進六	194612	鈴木弘茂	193805	田賀井秀夫
	194310	田端精一	193908	長崎準一	193910	福井 哲
	195335	矢島一治男	193811	吉武素水	194881	吉田一栄
10,000 円	194101	赤沢次男	192801	井出善弥	194832	伊藤秀雄
	195205	宇田川重和	195001	各務芳樹	200061	加藤誠軌
	195002	川浪重年	195003	菊地 央	191706	木船要太郎
	194141	小泉善之助	200046	佐多敏之	194810	芝原雅弥
	195323	鈴木博良	195211	宗宮重行	193608	左右田孝男
	194914	田中博一	194145	田中 弘	200267	富塚 功
	194313	埜崎堅造	195329	日浦 致	195105	山内尚隆
9,000 円	193507	水野茂樹				
7,000 円	194401	愛甲 昇	195701	石原幸正	193701	伊藤正三
	193802	鶴野太郎	193803	江藤哲夫	194002	大原 功
	194140	加藤政良	194608	加藤守光	194847	金武典夫
	194611	小出儀治	194852	子安一義	197108	近藤建一
	194214	田村忠臣	194812	利根川洋	194312	内藤隆三
	194862	名取賢荘	195216	福井 博	194817	福浦雄飛
	194822	森 元邦	195608	森田直文	192611	吉川俊吾
5,000 円	194830	秋山方宏	198017	朝野英一	194114	浅野修二
	194201	浅見進一	194501	阿部才進	200247	荒井康夫
	196101	池田 勉	194833	石毛健二郎	196301	井関孝善
	194503	伊藤 彰	193601	稲村 泰	200073	岩元貞幸
	194506	梅田夏雄	196002	梅原一正	197614	江上浩二
	195703	大熊 奂	200252	大塚 淳	200226	大津賀 望
	197806	近江成明	194842	大牟礼勝	195602	岡田芳之
	194844	荻島達男	200062	音馬 峻	200074	開沼章夫
	194634	桂 宏	194325	川村久爾彦	194409	河原田次剛
	197408	久保寺正二	200192	黒田泰弘	192319	外川 進
	192706	小島豊之進	194908	小尻昌弘	194534	小山達夫
	194809	斎藤勝一	197314	斉藤康行	194911	佐野川建
	194412	渋谷益男	196907	島井駿蔵	194004	素木洋一
	194417	吹田安兵衛	194919	杉浦孝三	195408	鈴木節三
	197512	高木喜樹	194125	高田利彦	197612	高橋達人
	194126	竹沢義郎	195910	武 孝夫	194811	武田雄二
	197810	多田昌史	200186	田辺昌之	195909	田平伸生
	195409	塚本 宏	195912	辻 敏夫	193806	友田正雄
	196925	中川善兵衛	196209	中口国雄	195605	中村 敦
	194866	成田 正	198112	野間竜男	200086	橋見富士夫
	194816	浜野健也	197714	広瀬 哲	195331	福崎福七
	195310	藤本章一郎	196618	松永一郎	200233	丸茂文幸
	194344	溝上登一	200238	湊 一郎	200075	向井洋二
	196722	村田 浩	196728	毛利尚彦	196412	森川日出貴
	195314	安竹了和	196621	安田榮一	197915	山口 潤仁
	194825	山本 登	194880	山本 広	195316	山本博孝
	200258	李 應相	194319	渡辺一行		
4,000 円	197501	阿蘇辰二	200193	五十嵐幹治	194529	石井鐵彌
	197604	江尻寿憲	197506	大江正人	196303	大田黒宣人
	197605	小田切正	195404	川上辰男	200107	神崎修三
	200108	栗林 清	198019	澤木 至	194123	四宮正善
	197811	高瀬進行	198220	田辺 淳	194718	張 鴻烈
					194712	古賀義根
					194007	田上嘉秋
					200053	星野芳夫
					194604	入江日出男
					200249	川田尚哉
					200181	倉田 貢
					193607	新庄重生
					194213	田中廣吉
					194146	中沢三知彦
					194622	渡辺宗男
					194602	伊藤豊成
					193704	尾野勇雄
					195102	亀井四郎
					194212	境野照雄
					200246	中村義郎
					193809	松本勝喜
					195201	浅野正和
					194901	五十嵐才吉
					197419	磯貝 純
					195903	内山 浩
					192903	大石信男
					200189	大場立夫
					197706	岡野誓太郎
					197405	片山恵一
					196007	木村脩七
					200184	鯉江七郎
					196207	近藤 保
					194713	塩田政利
					193108	真保義郎
					197725	宋宗 澤
					200187	高橋俊郎
					195324	田代楠熊
					196608	大門正機
					194863	内藤 繁
					194441	中山恒彦
					196611	羽田晃治
					194418	藤井豊男
					194218	三沢賢一
					195104	村上光一
					200080	守吉佑介
					196307	山根正之
					193810	吉田 格
					200088	市村博司
					192704	岡本十郎
					200263	北島圀夫
					195908	清水 廣
					192805	角田穎保

	196609	伴野紘司	198210	中条一秀	194814	長岡為行	196508	根本成士
	194720	長谷川泰	197520	浜田利平	198728	早川 信	193505	速水多根雄
	194440	半谷哲男	194546	平野英昭	200225	平林順一	194819	古海宏一
	196616	牧島亮男	197715	松村 茂	198216	藪田和哉	198326	吉井 正
	196511	吉村昌弘						
3,500 円	192222	木島 昇						
3,000 円	194831	厚見昌弘	196602	井川博行	194601	井形 勉	200259	井上圭吉
	196001	猪股吉三	200067	今岡保郎	196402	色川秀勇	194303	上野三郎
	194429	江上 明	192504	江口愛二	194508	大井修一郎	194839	大内三男
	197020	大隈信行	200220	太田京一郎	197205	大塚 正	200256	大野勝美
	197203	尾川正美	196502	河田幸司	200197	北沢章生	200089	熊代幸伸
	196813	国分 隆	198324	古口 誠	194535	今間朋春	194436	後藤九五
	196407	斉藤武四郎	198206	重松正久	197607	篠崎和夫	194413	清水 尚
	198008	下田直之	198618	鈴木龍太	194006	関口 淳	194540	竹村 章
	194008	田代 仁	200234	田中清明	198009	田辺靖博	196909	玉上佳彦
	197113	田村信一	197216	仲川 清	196306	中川順吉	194009	中村周清
	195707	西 晴哉	194339	西元三郎	197114	二宮秀明	193119	丹羽 誠
	195308	野口昭男	194616	延 義之	194861	飛川 晨	198311	蛭田和幸
	196615	細井久孝	200266	牧野一郎	200283	松尾陽太郎	192811	松崎錠三
	197223	三浦一清	194664	御代健治郎	200173	森田直年	198518	門馬 旬
	195313	柳 正光	194549	山内祐次	197916	横谷洋一郎	195508	若尾 茂
2,000 円	200273	青木 斌	195501	青木 進	198001	浅見琢也	198501	天野 勉
	194701	雨宮 正	197401	新井 清	194224	新井達郎	195801	新井博之
	195319	荒木繁蔵	198018	有代 匡	198602	安藤実彦	196401	五十嵐貞章
	200090	伊熊泰郎	198420	池本 正	197702	石黒 隆	198322	石崎正人
	197402	石澤伸夫	197004	石橋和史	198314	石森正樹	200270	市古忠利
	197302	伊藤公芳	200219	伊藤秀一	197327	伊藤正彦	197005	稲葉和生
	197202	犬飼崇雄	195202	井上 昭	197502	井上 悟	197503	今井 修
	198201	岩井明仁	193703	岩切一良	197504	岩崎 孝	193902	岩田俊喜
	196603	植木正義	200106	上菌裕史	200230	上西義介	198502	鶴沢克久
	196808	牛田由郎	198735	碓井俊一	194837	内田健治	197907	江頭哲郎
	194838	江川弘水	194531	大城敦之	198736	大久保総一郎	200227	大沢栄也
	198404	大須賀卓生	198301	大竹一宏	197105	大塚邦夫	198405	大橋玄章
	194509	大庭 宏	200188	大矢真吾	197106	岡田 清	200064	岡田昭次郎
	200057	岡本洋一	198407	緒方浩二	195317	冲 和男	196114	荻納 淑
	194305	奥田 進	200144	奥野正幸	197908	奥山雅彦	194510	加川 勲
	200271	掛川一幸	194103	影山尚義	195206	片瀬伝治	197309	加藤 拓
	197707	加藤忠男	195403	加藤博之	197909	加藤昌宏	200039	加藤六美
	194709	金丸豊之助	197407	加山恒夫	196928	河内信治	198105	木枝暢夫
	196504	菊池光治	194410	菊池武正	193904	北村友太郎	196405	木戸雄二
	196503	木村多喜雄	194849	日下部中治	194639	草場知喜	196906	倉本 透
	195406	小出一成	197409	古賀哲次	196003	小島尚剛	194105	小西 猛
	198711	小林幹雄	194209	小林通夫	194909	小巻卓司	194120	小松原将
	198107	駒林正士	197712	今田幹子	198410	佐伯 淳	198614	西郷宏明
	195209	斉藤鶴義	192710	斎藤久明	195504	酒井利和	198006	酒部健一
	197110	坂本洋一	200280	桜井敏雄	193708	佐々木茂弍	196714	佐々木忠男
	197124	笹本 忠	192918	佐沢光夫	200183	佐藤 猛	194332	佐藤友利
	198207	佐藤信行	197410	佐藤文良	197723	佐藤 康	197911	佐谷野頭生
	197315	澤野清志	197316	重野 剛	198108	茂 啓二郎	196815	柴田研一
	198421	柴田純夫	194912	島 珪次	195005	島田信郎	197511	島森 融
	198508	下嶋浩正	194124	正田清一郎	200104	正田義雄	194005	白土一男
	200169	真行寺武士	198318	須賀陽一	197609	杉浦 央	195006	鈴木正義

200205 瀬高信雄	198208 曾我 肇	198209 高木達雄	200244 高橋健太郎
196104 高宮陽一	194515 滝沢 進	194651 田口重郎	197514 多島 容
196408 立花寛一	195007 巽 昭夫	197914 田中弦一郎	195212 田中貞夫
197111 田中英彦	197112 田中義和	198623 谷内俊之	197236 種本 啓
198633 玉置 充	197213 塚原修一	196106 塚本 行	197318 塚本 昇
194215 柘植信雄	193907 対馬英二	196911 戸出 孝	197215 戸谷陽一
200164 土井孝吉	192118 内藤義一	197813 中尾泰昌	195307 中川邦好
195913 中川真澄	198513 中島 章	195603 中嶋一浩	197413 中島 直
195410 中村 厚	198724 西岡正雄	197519 西川直宏	196108 錦織経治
197814 西田明生	200250 西野 忠	198021 西本直明	198726 西山 伸
198020 根本文男	195327 野木平八郎	198634 野々部顕治	197219 蓮 秀樹
200217 長谷貞三	195607 花岡則和	198625 花上康宏	197015 林 宏哉
197815 端山 潔	197530 原 真一	198626 原沢 毅	200156 原島和穂
200261 平尾 穂	200209 平野真一	196612 広瀬祐二	194868 広田直彦
196613 広田洋二	194132 福堂勇夫	197724 福原 実	194918 藤村宗平
197920 細川寿郎	194419 前沢秀憲	198312 前田 敬	197231 前田謙吾
194547 増田久男	197823 増田龍治	194821 升水政之	194011 榊本 賜
198212 松井久仁雄	197523 松井康治	196510 松井 実	198213 松崎 浩
200114 松山城仁	200096 丸山俊夫	194424 美崎敬之	197921 水沼達也
197719 見勢信猛	198308 満留達郎	200174 翠川雅士	192812 水上義介
194871 三善清達	200154 三輪真一	197525 室山健治	198215 毛利 護
194425 茂木朝雄	196004 持田 滋	198118 森田 寛	198732 安岡正喜
198309 安田公一	198313 安盛敦雄	194725 矢田部俊一	200139 柳沢和道
198417 柳田裕昭	197322 山口恵以	200175 山田久夫	198419 山田玲一
197225 山本 博	200185 横山辰雄	198218 余語瑞和	195917 吉田正明
194882 吉富恒雄	195414 吉野成雄	196512 吉谷川 貢	197235 若島喜和
193509 若林 明	196623 脇坂隆夫	194220 輪湖良一	196113 渡辺二郎
198120 渡辺太郎			



東京高等工業学校時代（大正年間）



東京高等工業学校時代の窯業科実験工場

大岡山だより

東工大の工学部は17学科から構成されており、無機材料工学科には6講座があって、学部の学生定員は35名です。東工大の学部は類別入学制をとっており、1年生は1-6類に分かれて入学し、2年に進むときに志望と成績順に各学科に所属し

常任幹事 加藤誠軌
ます。無機材料工学科を希望する学生は2類に入学することになっています。2年次では材料工学一般について、3年次では無機材料工学の基礎専門科目について勉強し、4年生になると各研究室に所属して卒業研究に従事します。大学院理工学

研究科無機材料工学専攻の修士課程学生定員は19名です。

平成元年度の学科主任と就職担当教官は大門正機先生、大学院専攻主任は木村脩七先生です。学部の卒業生は例年のように大部分が大学院に進学しますので、就職の対象となるのは主として修士課程2年の学生です。セラミック材料の重要性が社会的に認識されるようになって、今年も求人要求が非常に多く、需要の極く一部しか満足できないことは大変残念です。

この一年間における無機材料工学科の職員の異動は次の通りです。

昨年7月に大門正機先生が材料工学講座の教授に昇任されました。

同じく7月に平林順一先生が草津白根火山観測所（東工大附属）の助教授に昇任されました。

本年3月には篠崎和夫先生が材料加工学講座の助教授に昇任されました。

それから、井上悟さん(本年3月)と谷口尚さん(本年1月)が科学技術庁無機材質研究所に転出されました。今後のご活躍を期待します。

平林先生の後任として林滋生さん(本年1月)が、篠崎先生の後任として舟窪浩さん(本年4月)が、谷口尚さんの後任として平井寿子さん(本年4月)が助手に就任されました。

最後に、3月31日付で加藤が停年退官しました。

工学部無機材料工学科の組織と職員（平成元年4月）

講座名	教授	助教授	助手	技官・事務官
無機合成材料	水谷惟恭	篠崎和夫	舟窪 浩	桜井 修
結晶質材料	福長 脩	井川博行	平井寿子	福富路子
非晶質材料	山根正之	川副博司	安盛敦雄	山口恵子
セラミックス原料	大津賀望	岡田 清	林 滋生	三村恭子
材料加工学	大門正機		浅賀喜与志 鶴見敬章	
機能性セラミックス	木村脩七	松尾陽太郎	安田公一	大沢栄也
(材料工学基礎)				
(共通)			林 剛	松山勝美

東京工業大学工学部無機材料工学科編・セラミックス基礎講座

無機材料工学科として数年来の懸案であった「セラミックス基礎講座」の出版企画が発足しました。第1巻の「セラミックス実験」は学部3年次の学生実験のテキストで、世界中に類書のないものです。第2巻の「材料科学実験」は金属工学科、有機材料工学科と共同で実施している2年次学生実験のテキストです。第3巻以下も引き続いて刊行予定です。

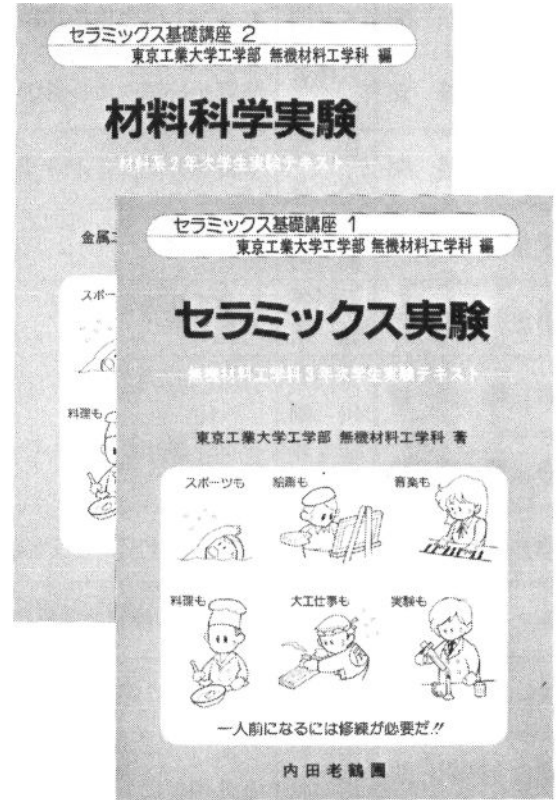
セラミックス基礎講座を刊行する趣旨は、セラミックスに関係のある知識と実用的な技術のノウハウを公開した「実際の役に立つ本」のシリーズを提供することにあります。本講座刊行委員会は各執筆者には以下のことをお願いしています。

- ① 著書は薄くても差し支えないから、類書の焼き直しではない、個性のある本を書いていただき度い。
- ② 抽象的な表現を避けて、専門の違う読者が容易に理解できるように易しく、かつ具体的に説明して下さい。

本講座の第1期企画については、無機材料工学科の職員が執筆しますが、第2期以降はこれにとらわれないで良い企画をと考えています。この企画についての会員諸兄のご協力・ご援助をお願いします。

セラミックス基礎講座第1期企画

- | | |
|-------------------------|-------|
| 3. X線回折分析(印刷中) | 加藤誠軌 |
| 4. はじめてガラスを作る人のために(印刷中) | 山根正之 |
| 5. セラミックスの超高压合成実験法 | 福長 脩 |
| 6. セラミックス粉体合成技術の基礎 | 水谷惟恭 |
| 7. セラミックス原料の精製と調整 | 大津賀望 |
| 8. 水硬性材料の熱分析・熱測定 | 大門正機 |
| 9. セラミックスのワイブル統計 | 松尾陽太郎 |
| 10. セラミックスの構造と化学結合 | 川副博司 |
| 11. セラミックスの複合材料 | 木村脩七 |
| 12. 実験装置を作ろう | 加藤誠軌 |



無機材料工学専攻(博士課程)修了者(昭和63年度)

氏名	研究室	博士論文 題目	進路
荻原 隆	加藤 水谷	単分散酸化物微粒子の合成と生成機構に関する研究	福井大学
佐伯 淳	加藤 水谷	イットリア部分安定化ジルコニア結晶の析出相形態に及ぼす外部応力の影響	東京工業大学
渡辺裕一	山根 川副	Study on Gap States in Amorphous Chalcogenide Semiconductors	長岡技術科学大学

無機材料工学専攻(修士課程)修了者(昭和63年度)

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
井口裕二	福長 井川	高温型クリストバライトの合成	三菱製紙(株)
石崎雅人	木村 松尾	多結晶黒鉛材料の気孔構造と機械的性質の相関	石川島播磨重工業(株)
市原高史	大門	水熱法によるPZT固溶体の合成とその圧電的性質	三菱化成(株)
小林幹雄	加藤 水谷	CVD法による窒化タンタル薄膜及びタンタルを含む窒化物混合膜の合成と析出機構	(株)東芝
島 裕和	大門	セメント硬化体の炭酸ガス吸収速度	三菱鉱業セメント(株)
瀧川賢司	大津賀 岡田	噴霧熱分解法による(Pb, La)(Zr, Ti)O ₃ 微粉体の合成	日本電装(株)
宮内昌明	加藤 水谷	噴霧熱分解法によるBaTiO ₃ 薄膜の合成	(株)NKK
安岡正喜	大津賀 岡田	メカノケミカル処理によるアルミナ粉体の性状について	名古屋工業技術試験所
山田俊幸	福長 井川	チタン酸ジルコニウム固溶体の相転移と熱膨張	電気化学工業(株)
岩崎光伸	山根 川副	ゾルーゲル法によるAl ₂ O ₃ -SiO ₂ 系ガラスの合成	博士課程進学
角野裕康	加藤 水谷	チタン酸バリウムセラミックス焼結体の微小領域の電氣的性質	博士課程進学
西村聡之	木村 松尾	サイクリックCIPによるセラミック粉体の成形	博士課程進学
西山 伸	加藤 水谷	La ₂ CuO ₄ 焼結体の電氣的性質	博士課程進学
矢野哲司	山根 川副	ZrF ₄ -BaF ₂ 系フッ化物ガラス融液の粘性に関する研究	博士課程進学

張 俊洪	山根 川副	ゾルーゲル法による $\text{Na}_2\text{O}-\text{B}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2$ 系ガラスの合成と分相挙動	博士課程進学
------	-------	--	--------

無機材料工学科 (学部) 卒業生 (昭和 63 年度)

氏 名	研究室	卒業論文 題目	進 路
今下勝博	加藤 水谷	MOCVD 法による $\text{TiO}_2-\text{ZrO}_2$ 系酸化物薄膜の合成	修士課程進学
内山一郎	加藤 水谷	ビスマス系超伝導セラミックスの合成と化学的・熱的安定性	修士課程進学
上田恵司	澤岡	プラズマ加速器によるアルミナセラミックスの衝撃破壊	修士課程進学
河村真一	橋爪	イメージング・プレートとシンクロトロン放射によるチタン酸ストロンチウム単結晶のラウエ・トポグラフィ	修士課程進学
金田圭一	大津賀 岡田	ケイ石の加熱によるクリストバライト転移	日本生命(株)
近藤隆治	丸茂 森川	合成チタンパイロキシンの構造に関する研究	修士課程進学
越川克己	近藤	窒化ケイ素を母体とするセラミック複合体の衝撃焼結	修士課程進学
下村克彦	大門	PLZT 焼結体の透光性に与える共沈ゲルの乾燥条件の影響	修士課程進学
鈴木康義	山根 川副	フッ化物ガラスの光学的性質	修士課程進学
関口淳之輔	今井	金属-セラミックス複合微粒子の調整	修士課程進学
関 和彦	山根 川副	水溶液からの SiO_2 薄膜の形成反応	修士課程進学
高橋克則	中川	YBC 超伝導体の低温合成	修士課程進学
高野章弘	鯉沼	プラズマ制御型スパッタ法による酸化物超伝導薄膜の作製	修士課程進学
高木保宏	大津賀 岡田	ケイ藻土を用いた $\text{NH}_3-\text{MgO}-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{H}_2\text{O}$ 系の水熱反応	修士課程進学
水流靖彦	木村 松尾	アルミナ添加多結晶 MgO の力学的特性に及ぼす粒径の影響	修士課程進学
寺本吉伸	福長 井川	$\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CuO}_x$ 系超伝導体の合成と物性	修士課程進学
長野 弘	中村 伊藤	$\text{Bi}_2\text{Sr}_{2-x}\text{CaCu}_2\text{O}_y$ ($x \geq 0, y \approx 8$) の単相化とその超伝導性	住友海上火災(株)
中村博幸	木村 松尾	サイクリック・スクイズダイを用いたアルミナ坏土の成形と焼結体の評価	修士課程進学
成田 博	福長 井川	$\text{ZrTiO}_4-\text{HfTiO}_4$ 系固溶体の誘電特性	修士課程進学
西 一洋	大門	アルカリ骨材反応におけるパイレックスガラスの反応量の測定と反応組織の観察	修士課程進学
二瓶靖和	山根 川副	光分解法による機能性ガラスの作製	修士課程進学
原山正明	丸山	炭化ケイ素の熱伝導度に及ぼす中性子照射効果	修士課程進学
笛田和裕	木村 松尾	$\text{SiC}-\text{CVD}$ コーティングによる SiC 焼結体の強度向上	修士課程進学
武藤晴文	大津賀 岡田	アルミナ-スポデューメン系の焼結挙動	修士課程進学
松浦 新	安田	SiC ウィスカー/ガラス複合材料の破壊靱性と熱応力	修士課程進学
牧 順一	福長 井川	cBN-hBN の変換過程の研究	修士課程進学
町 徳海	山根 川副	高分解能 NMR による $\text{Na}_2\text{O}-\text{SiO}_2$ 系ガラスの構造の研究	旭硝子(株)
宮崎広行	井関	中性子照射した SiC のスエリングとその加熱による回復挙動	修士課程進学
三宅達朗	福長 井川	ダイヤモンド中の固相拡散	修士課程進学
矢澤武志	木村 松尾	ポリシラザンを用いた炭素-セラミックス複合体試作	修士課程進学
脇谷尚樹	加藤 水谷	微小電極を用いた ZnO バリスタの粒および粒界の V-I 測定	修士課程進学

工業材料研究所の現況

工業材料研究所所長 齋藤 安俊

工業材料研究所が長津田キャンパスに移転したのは昭和54年6月ですから、間もなく10年の歳月を経たこととなります。その間、大部門への編成替、創立50周年記念事業などが行なわれましたが、人事面では何人かの先生方が停年や転出で去られ、入れ換わりに新しい先生方が着任されました。黒正清治、宗宮重行、星野芳夫3教授の停年退官については前号でご紹介しました。

5年間所長を務められた浜野健也教授が担当されていた材料プロセス部門（無機焼成材料）の教授には、同部門（合成無機材料）助教授の今井久雄氏が昭和62年9月付で昇任されました。また、木村脩七教授が無機材料工学科に配置換後、空席となっていた材料プロセス部門（超高真空材料）の教授には、東京大学工学部助教授の鯉沼秀臣氏が同9月付で着任されました。鯉沼教授はエネルギー変換およびエレクトロニクスデバイス用新材料の開発を目指した基礎研究を行なっておられます。

昭和63年度に入って、附属研究施設である新素材セラミックス実験施設が廃止され、新たにセラミックス研究センターが発足しました。新素材セラミックス実験施設は、時限で廃止された水熱合成材料実験施設に代わって昭和59年度に設置され、宗宮重行施設長、吉村昌弘教授を中心に多くの成果を挙げて参りました。一方、機能性セラミックスの分野における社会的要請が年々高まってきました。

その結果、新素材セラミックス実験施設を時限を待たずに発展的に解消させて、附属セラミックス研究センターを時限10年で設置することができました。同時に、助教授と外国人客員教授各1名の増員が認められました。セラミックス研究センターの運営委員会には所外の教官にも加わっていただくことになり、無機材料工学科から水谷惟恭教授にご協力いただいております。

昭和63年4月以降の人事異動としては、4月付で材料プロセス部門（無機熔融材料）助教授に、伊藤満氏が大阪大学工学部助手から昇任されました。伊藤助教授は本学材料科学専攻の出身で、新しい酸化物超伝導体の開発研究を進めておら

れます。また、黒正清治所長の停年退官にともない、同4月付で、不肖私が所長に就任いたしました。次いで5月付で、本学工学部助手兼研究協力部技官の石沢伸夫氏が、材料プロセス部門（合成無機材料）の助教授に昇任されました。このように学部と本研究所との間に人事交流が実現しましたことは、相互理解と研究の活性化のためにも大変喜ばしいことと思っております。

セラミックス研究センターの発足に加えて、昭和63年5月付で、先端機能セラミックス（TDK）寄附研究部門を3年の時限で設置しました。これはTDK株式会社のご好意によるもので、本学の寄附講座としては第1号です。寄附研究部門には、理化学研究所より川合眞紀博士を客員教授として迎え、助手相当教員2名の任用も済んで、研究体制の整備が着々と進められています。

セラミックス研究センターの教官人事は、7月付で材料プロセス部門（超高圧高温材料）の澤岡昭教授がセンターに担任換となり、同時にセンター長を併任されました。次いで8月には、アメリカ合衆国ノースカロライナ州立大学のホリエヤスユキ教授が外国人客員教授として着任され、約1年間の予定でセラミックスの衝撃圧縮による特異構造生成と計算機シミュレーションの研究に従事しておられます。センター助教授には、材料基礎部門（高純度材料）助手の高木喜樹氏が10月付で昇任されました。

澤岡教授のセンター転出にともない、材料プロセス部門（超高圧高温材料）教授には、11月付で



工業材料研究所の建物

安田榮一氏が昇任されました。

そのほか、本研究所の防災材料開発部門には、未利用資源材料開発を研究分野とする客員部門があります。昭和63年度は、高知大学理学部附属水熱化学実験所の山崎仲道教授と長岡技術科学大学電気系の高田雅介助教授にお願いしていますが、両先生には本研究所の専任教官では十分にカバーできない分野の研究にご協力下さいますので、研究活性化の大きな支えになっております。

工業材料研究所の無機材料系教官は、大学院総合理工学研究科材料科学専攻に属し、大学院学生の教育と研究指導の任に当たっています。昭和63年度の材料科学専攻主任は本研究所の丸茂文幸教授で、一切のお世話をしておられます。大学院学

生については、無機材料工学専攻と共同で、春休みを利用した工場等見学旅行を実施しています。この行事は修士課程1年次学生が中心ですので予備知識や好奇心もあり、学部学生の見学よりは効果的と思われる。

以上、工業材料研究所の現況をご報告しましたが、大学附置研究所の立場は極めて厳しい状況にあります。工業材料研究所では、社会の要望に応えるべく努力いたしておりますので窯業同窓会の皆様にもいっそうのご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

最後に、材料基礎部門（結晶体物性）の森川日出貴助教授が3月1日逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

工業材料研究所の組織と職員（平成元年2月）

部門名	研究分野	教授	助教授	助手
材料基礎	結晶体物性	丸茂文幸	森川日出貴	田中清明
	高純度材料	齋藤安俊	阿竹 徹	伊藤義孝
	材料構造解析		橋爪弘雄	
材料プロセス	合成無機材料	吉村昌弘	石澤伸夫	野間竜男
	無機焼成材料	今井久雄	中川善兵衛	大矢 豊
	無機熔融材料	中村哲朗	伊藤 満	
	超高圧・高温材料	安田榮一	近藤建一	田邊靖博
	超高真空材料	鯉沼秀臣		吉本 護
防災材料開発	防災材料工学	古村福次郎	安部武雄	篠原保二
	材料耐久物性	小池迪夫	田中享二	橋田 浩
	複合材料開発		林 静雄	
	未利用資源材料開発(客員)	(併任) 山崎仲道	(併任) 高田雅介	
セラミックス研究センター	センター長(併任) 澤岡 昭	高木喜樹	田村英樹	
外国人客員教授	ホリエヤスユキ			
先端機能セラミックス(TDK)	川合眞紀		花田 貴 関根理香	

材料科学専攻（博士課程）修了者（昭和63年度）

氏名	研究室	博士論文 題目	進路
川路 均	齋藤 阿竹	機能性材料における相転移現象の物理化学的研究	東京工業大学
濱野明弘	齋藤 阿竹	強誘電体セラミックスにおける逐次相転移の熱力学的研究	住友金属工業(株)
横川善之	吉村 石澤	蛍石関連希土類-タンタル複合酸化物の合成とその熱力学および結晶化学	名古屋工業技術試験所
梁 瑞興	中村 伊藤	銅系複酸化物の超伝導性に及ぼす化学ドーピング効果	東京工業大学 準客員研究員
真保満雄	中川	スピネルセラミックスの焼結におけるフッ化物添加の影響	豊田自動織機製作所(株)

材料科学専攻（修士課程）終了者（昭和 63 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
伊東勝久	丸茂 森川	非線形光学材料 BaB ₂	HOYA(株)
榎本尚也	中川	Application of Ultrasonic Technique to Ceramic Powder Preparation from Solution	日本セメント(株)
小笠原尚也	吉村 石澤	水熱酸化した Si ₃ N ₄ ウィスカーを分散した欠陥抑制型ガラスコンポジット	(株)ニコン
加納一彦	中村 伊藤	光音響分光分析による酸化物系の相転移観測	(株)日本電装
川崎克己	中村 伊藤	複酸化物 TmBa ₂ Cu ₃ O ₇ における平衡酸素量と超伝導相図	(株)TDK
高鍋昌一	齋藤 阿竹	酸化物超伝導体 YBa ₂ Cu ₃ O _{7-δ} の熱力学的研究	三菱電機(株)
竹中康之	丸茂 森川	X線回折法による石英の相転移機構に関する研究	日本アイ・ピー・イー・エム(株)
田中良彦	齋藤 阿竹	臭素雰囲気におけるステンレス鋼の高温耐食性	東京電力(株)
谷口碩士	安田	樹脂炭をマトリックスとする C/C の複合材の力学的性質と配向依存性	東亜燃料工業(株)
中畑 匠	橋爪	ヘテロエピタキシャルフッ化物混晶の X 線回折法による構造研究	三菱電機(株)
中村好一	今井	水素吸蔵材料のメタノール分解活性	旭硝子(株)
西岡正雄	吉村 石澤	アークイメージ加熱による窒化物、炭化物セラミック粉体の合成	日本ガイシ(株)
早川 信	吉村 石澤	ジルコニウム、チタンの窒化物及び炭化物粉末と高温高压水との反応	東陶機器(株)
福山洋平	澤岡	炭素・アルミナ・窒化ケイ素の超高压力圧縮効果	NTT
本多克也	齋藤 阿竹	湿潤雰囲気におけるステンレス鋼の酸化挙動	博士課程進学
山崎 悟	丸茂 森川	合成ガーネット中の陽イオン分布と成長機構	(株)INAX
山本浩史	澤岡 高木	酸化物超電導体の超高压処理	富士ゼロックス(株)

原子炉研だより

井関 孝善（昭和 38 学）

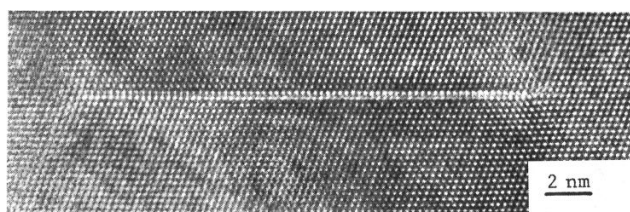
文部省は全国的に研究所の活性化をはかるため、人事交流、共同利用、国際交流などを重視する方向付けで、研究所組織の見直しを打ち出しています。原子炉研の組織見直しはなかなか難しく、大学全体にお世話になって3年間検討してきましたが、本会誌がお手元につく頃にはほぼ結論が出ていると思います。これは5月頃に概算要求をするためです。大学としては、原子力を含んだエネルギー関連の研究所に改組する方向で作業が進められております。

もう一つは高温核燃料要素実験室からニュークリアセラミックス実験室への転換です。臨時措置(例の外貨べらし予算)のため、施設改修、装置設置は昭和 62 年度の単年度予算で行なわれました。

本来は2~3年度にわたる計画でしたので、大学事務局や我々に課せられたノルマは大変なものでした。お蔭様で透過電子顕微鏡を中心に X

線回折装置、熱伝導率測定装置、強度試験機などが放射線管理区域内に設置され、セラミックスに対する放射線照射効果の研究に活用できるようになりました。現在は人員増はとて望めませんので、これらの装置をどのように維持活用するか頭を痛めているところです。特にこの実験室は放射性物質を取り扱える施設であるため多くの制約があり、管理のために不断の努力が必要とされます。

我々の所属する原子炉燃料部門には人事移動はなく、教授井関孝善、助教授丸山忠司、助手矢野豊彦、技官今井雅三で構成されています。



中性子照射した SiC 結晶中の転位ループの透過電子顕微鏡写真
(原子の層が1個余分に入っていることがわかる)

原子核工学専攻（修士課程）修了者（昭和 63 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
佐々木一成	丸山	中性子照射 SiC 焼結体中の核変換生成 He の拡散および放出	博士課程進学

ご挨拶

常任幹事 加藤 誠軌

同窓会は本来は卒業生の団体です。それが、故近藤連一教授に三年がかりでくどかれて、一回も顔を出したことのなかった窯業同窓会のお世話をすることになったのが十数年前です。停年退官でこの雑用から開放されるのは大変うれしいことです。後任は六月の総会で決めていただきます。

東京工業大学のセラミックスは百年以上の歴史をもっています。東京職工学校の陶器玻璃工科にはじまって、東京工業学校と東京高等工業学校の窯業科、東京工業大学（旧制）の窯業学科、そして第二次大戦後の混乱期を経て、東京工業大学工学部の無機材料工学科へと何回も変身しました。

窯業は人類の歴史と共に始まった最古の産業の一つですが、電子セラミックスに代表される新しいセラミックス産業が欧米の市場を席卷する

ほどに成長し、超伝導セラミックスの発見が世界中の科学技術者を興奮させています。

優秀な人材の確保はあらゆる組織にと

って最も重要な課題ですが、現在の我が国ではセラミックスの教育機関が極めて少なく、無機材料工学科の設置されている大学は他に一校があるだけです。無機材料工学科の卒業生に対する社会の期待は将来も増えることはあっても減ることは考えられません。

窯業同窓会のますますの発展を期待してお別れの言葉に代えます。



おことわり

懸案の会員名簿の刊行が遅れたことをお詫びします。

窯業同窓会は歴史が古いだけに、名簿の作成はなかなか大変な作業です。学校名や学科名が何回も変わり、学科のない時代や、大学院が化学工学専攻に属していた時代もありました。窯業研究所が工業材料研究所に変わって、さらに長津田に移転しました。さらに、窯業同窓会の会員には卒業生でない沢山の方々が含まれていません。古い時代の方々については、学校の公式記録に載っていない卒業生や、分類の難しい方々もかなりあります。教授の方でも、記録を調べ

てもよく分からない方が何人もおいでになります。

前回までの名簿ではそれらを適当に処理していたのですが、コンピュータではあいまいは許されません。したがって、今回の名簿ではある程度割り切って処理しました。この点ご了承下さい。今回の名簿では、データベース桐を使うパソコンソフトの作成を篠崎和夫教授にお願いして、一年以上前から原簿の整備を行い、印刷製本は大日本印刷(株)に依頼しました。名簿の発行が予定よりも数ヶ月遅れたのは印刷会社の不手際によるものです。

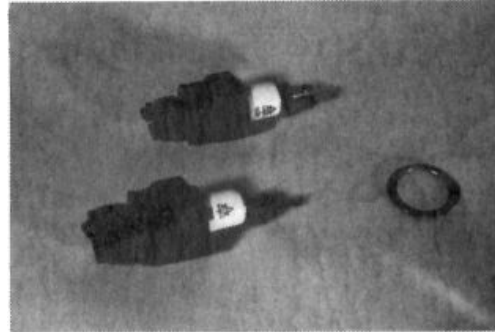
平野陶磁器コレクション

平野陶磁器コレクションはワグネルに教えを受けた元東京高等工業学校窯業科長平野耕輔の寄贈になるもので、わが国の近代的陶磁器産業の発達期における研究試作品と初期の工業製品を集めた異色のコレクションである。ワグネル関係の資料と平野コレクションは百年記念館の地階特別展示室に収蔵してある。以下にそのいくつかを紹介する。



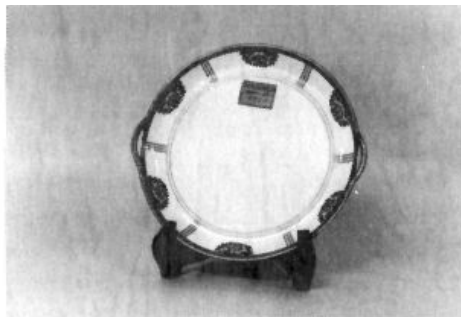
旭焼タイル

明治 23 年、浅野総一郎の出資で旭焼製造所ができて、輸出用のストーブ飾タイル等を製造した。この作品は我が国でつくられた最初の洋式タイルである。



点火栓

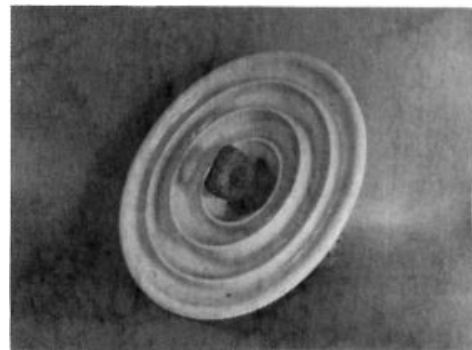
昭和 5 年、日本碍子株式会社の製品である。同社は点火栓専用のトンネル窯を築いて、昭和 5 年 10 月から N G 点火栓の名称で販売を開始した当時の製品である。



磁器、皿

ドイツ産の長石質硬質磁器に準ずる洋食器をはじめて工業的に製造した。

明治 41 年頃の日本陶器株式会社の製品である。同社は明治 37 年名古屋に設立され、



懸垂碍子

昭和 3 年、日本碍子株式会社のトンネル窯による第 1 回焼成品で、同社は昭和 3 年 9 月、はじめて直火焼成式トンネル窯を導入して製品の品質が格段に向上した。

昭和 3 年、日本碍子株式会社のトンネル窯による第 1 回焼成品で、同社は昭和 3 年 9 月、は



化学磁器、蒸発皿

松風工業株式会社で開始された当初の製品である。

大正初年、従来輸入に頼っていたドイツ製品に匹敵する性能を備えた化学磁器の製造が、松



陶歯

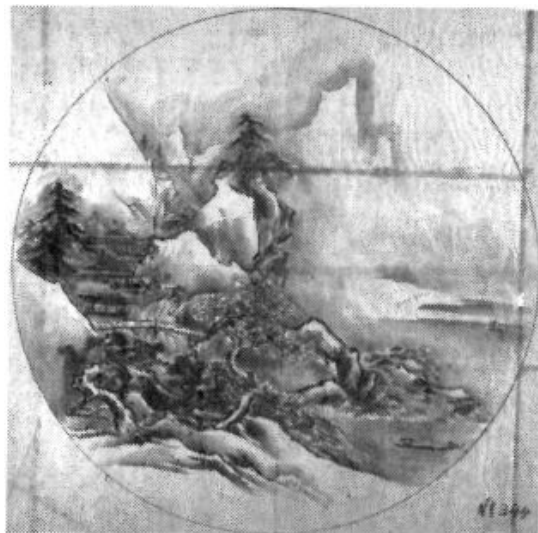
陶歯は明治 30 年ころから試作が行なわれていたが、大正 11 年、松風陶歯製造株式会社設立されて、外国製品に劣らない製品が製造されるようになった。写真は当時の製品見本である。

陶歯は明治 30 年ころから試作が行なわれていたが、大正 11 年、松風陶歯製造株式会社が

旭 焼

日本の伝統的な絵画様式をもつ芸術性の高い陶器である。一般の上絵付け色絵陶器とは違って、透明釉の下に色絵具で細密に描画してある。ワグネルは明治16年からこの研究に着手し、はじめは吾妻焼と呼んだが、同18年に設備を東京職工学校に移して旭焼と改称した。旭焼の研究開発は助手の植田豊橘（後に教授）

が、絵付けは荒木探令と春名錦山が担当した。同23年、深川区東元町に旭焼製造所ができて、額皿や花瓶、装飾タイルなどを製造した。旭焼は展覧会で度々入賞して顕官や豪商の邸宅を飾ったが、製造が難しくて経営難となり、明治27年に工場が閉鎖された。



旭 焼 原 画



旭 焼 額 皿

住所変更などのご連絡は下記へお願いします。

152 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部無機材料工学科気付
窯業同窓会事務局
TEL 03-726-1111(内)2518
FAX 03-729-0393

事業資金のご送金は下記あてにお願いします。

銀行振込の場合

第一勧業銀行大岡山支店 普通 1257281
東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学内
窯業同窓会山根正之

郵便振込の場合

口座番号東京 0196855
窯業同窓会